

(様式第4号)

図書館協議会 会議概要

1	審議会名	図書館協議会
2	日時	平成 28 年 9 月 23 日 午後 6 時 30 分から午後 8 時 30 分まで
3	会場	上田情報ライブラリー
4	出席者	中澤会長、新山副会長、山崎委員、小竹委員、加藤委員
5	市側出席者	山崎館長、飯島館長、山口次長、土屋次長、木嶋次長、金田係長、囑託職員内山、土屋係長
6	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者	3 人 記者 人
8	会議概要作成年月日	28 年 9 月 23 日
協 議 事 項 等		
1	開 会	
2	会長挨拶	
3	協議事項	<p>(1) 第二次上田市図書館基本構想(素々案3)についての説明</p> <p>(事務局) 前回の協議会での指摘事項による修正点と今回の会議資料の確認</p> <p>(事務局) 7月15日、8月26日の会議概要の確認</p> <p>(事務局) アンケートについて説明 性別については女性が多く利用している。年齢層は、上田図書館は60代以上の利用者が多い。情報ライブラリーは10代の利用者も多い。地域では、上田図書館は右岸の利用者が、創造館は左岸の利用者が多い。丸子図書館は、丸子地域だけでなく、武石地域、東御市、長和町、立科町の方も利用している。真田図書館は、真田地域の方のほかに神科・豊殿地域の方も利用している。利用頻度は、情報ライブラリー以外の図書館は月数回の利用であるが、情報ライブラリーは、より頻繁に利用している。 利用目的は、ほとんどの図書館は本・雑誌などの貸出・返却が主な目的であるが、情報ライブラリーは、講座利用者や自習のための利用も多い。開館日数については、開館日数を増やしてほしいという要望がある。開館時間については、情報の土日祝日の開館を早くしてほしい。閉館時間については、どの図書館も土日祝日の閉館時間を遅くしてほしいとの要望がある。 今後、図書館に取り組んでほしいこととして、どの図書館も図書資料の充実が多いが、上田図書館では施設・設備の充実、創造館は見つけやすい本の配置、情報は学習スペースの拡大など図書館によって違う。 エコールについては、知らない、わからないと答えた人が1/4いる。レファレンスについては、わからない・利用したことがない人が半数以上いる。 インターネットによる蔵書検索や予約については、利用しない・利用のしかたがわからないと答えた人が半数以上いる。ボランティアはできない・したくない人が15%いるが、してもいいと思っている人が80%を超えると考えることも出来るのでは。 1か月の読書量は、約半数の方が1～5冊である。電子書籍の利用は、それほど多くない。 総合的な満足度では、丸子、真田図書館での満足度が80%以上で高い。</p> <p>(委員質問) 情報ライブラリーのアンケートはどのように行われたのか。</p> <p>(事務局)</p>

アンケートについては、なかなかご協力いただけない部分もあり、講座利用者をお願いした部分が多い。このことが、数字として表れている傾向がある。

(事務局)

図書館の施設整備について説明

基本目標 で、図書館の施設整備について項目を新たに加えさせていただいた。

上田図書館については、県内でも一番古い図書館であり、施設の老朽化・開架スペースの確保・バリアフリーの問題等があり、またさまざまなサービスを提供するためにも施設整備が必要である。創造館分室については、広域連合の創造館図書室と共同で運営しているため、広域連合と協議しながら図書室の拡充を目指す。武石公民館図書室については、武石地域自治センターの改築に合わせて複合施設としての検討課題となると予想される。

(委員質問)

公共施設マネジメント方針の中で、施設の整備の目安として耐用年数60年とあるが、この点はどのようなのか。

(事務局)

上田市全体の施設の試算をするためのもので、図書館が60年大丈夫ということではない。国税庁のホームページの参考資料では、耐用年数50年という数字が出ている。

施設によって違う。

(委員質問)

上田図書館と創造館分室、武石公民館図書室の施設整備が喫緊の課題としての説明ですが、基本構想の中で、現状と課題今後の部分が、武石公民館図書室の記載が少ないがどうか。喫緊は言い過ぎではないか。

(事務局)

喫緊の表現は削除する。

武石公民館図書室については、現在方向性が出ていない。

運営面で、開館時間等の問題や、職員体制についての問題はあるが、利用者からの意見も出ていない。

(委員質問)

文化財を次世代に引き継ぐことは、図書館の重要な使命であるが、貴重資料の劣化が進んでいるという記載は、たいへん重大なことであり、施設整備を進める根拠になるのではないか。この点についてはどうなのか。

(事務局)

現在、貴重資料を劣化が進まないように中性紙による袋詰めをしたり、蛍光灯をLEDにしていくな計画がある。できる範囲で対策をしているが、空調設備もなく、ひどい状態の資料もある。

(委員質問)

「劣化している」という断定的な表現は如何か。

(事務局)

「劣化が想定されます」というような表現にします。

(委員質問)

「他の図書館」という表現は、上田市の他の図書館なのか、他市の図書館なのかわからないので、修正したらどうか。

(事務局)

「他市の図書館」とします。

(委員意見)

コンセプトという言葉は、誤解されやすい表現なので、日本語での表現「運営方針」とかにした方がいいのではないか。

(事務局)

修正します。

(委員質問)

以前に平野先生の御講演を拝聴したことがあり、その中で、上田の図書館のことを考える時に、

明治記念館設立趣意書を忘れてはならない。上田郷友会月報の記載されており、青少年の教育として図書館をとこと、また永久の効果があると書かれている。とっておられた。そして上田市に大正12年に図書館がつくられた。昭和39年になり、新図書館建設運動が、PTA母親文庫から始まり、母親の教養と子どもたちの学習のために、明るく静かな図書館がほしいという願いのもとに、多くの市民の力によって建てられた。これから図書館を建設するにあたっては、これらの歴史的な背景を踏まえたうえで、どういう図書館にしていくか、問題提起からの図書館建設だけでなく、前向きな視点からの図書館建設について考えていくことが大事である。

(委員意見)

問題解決の方向性をしっかりと見極めなければならない。

(委員意見)

創造館分室は左岸地域の重要な位置づけがあり、左岸地域の利用者も多い、職員体制の強化をお願いしたい。

事務局

現在、上田図書館から非常勤職員2名に加え、今年度から正規職員を1名が、毎日ではないが、勤務するよう体制を強化してきている。広域連合から2名交代で、半日又は1日木曜日から日曜日勤務している。今年度からは、少し解消されてきている。

(委員意見)

正規職員が勤務する体制を作っていただきたい。

事務局

職員体制については、これからも検討していきたい。

(事務局)

蔵書数80万冊構想について説明。

図書館の規模の目安基準として、日本図書館協会が数値基準(Lプラン21)を示している。全国の同規模の図書館の蔵書数を参考に比較すると、上田市は若干蔵書数が少ない。県内の新設図書館の収容能力は数値基準(Lプラン21)を考慮して建設している。収容能力一杯になった時、人口に対する数値基準(Lプラン21)の何倍になるかで考えたとき、現在の上田市全体の蔵書数に当てはめたとき、80万冊になる。数値基準(Lプラン21)は市全体の数値であり、現在の上田市の4つの図書館のうち、丸子、真田、情報ライブラリーはこれ以上増やせない状況であるので、上田図書館のみで増加分を吸収しなければならない。毎年の純増数を5,000冊であれば、50年後は80万冊になる。

(委員意見)

資料によって、蔵書数の数字が若干違うが、それはどうしてか。

(事務局)

登録がされていない貴重資料があるので、その分は数に入っていない。

(委員意見)

次回、80万冊構想についての話し合いと基本的な図書館の基本方針についてもう一度協議をしたい。

次回は10月28日とします。